

# 大塚さん (帯三条) 杉さん (江陵) 全国へ

## 総文祭書道 応募作士幌で展示

高文連の第52回全道高校書道展(10月4、5日、室蘭市)で、帯広三条高2年の大塚里央奈さんと江陵高2年の杉亮兵さんが、来年7月に佐賀県で開催される全国高校総合文化祭(総文祭)の出場者(牧内奏、折原徹也)に選ばれた。

全道大会には道内の高校から800人が出場。文化連盟賞は全道57人(十勝管内は大塚さん、杉さん含む7人)が受賞し、3年生を除く17人が総文祭への推薦

候補者選ばれた。

大塚さんは5歳から習字教室に通い、書道部には高校から所属。縦135センチ、横35センチの「半切紙」に、漢字とかなを素材とした近代詩文書「夕闇に咲く 月下香のかおり」を書いた。

「蘭」の字の形や表現に魅力を感じ、世界観を広げていった自作の言葉「夕闇に咲く」は「筆を2本合わせた合筆で、かすれや独特なリズムを出した」と大塚

さん。全国大会に向けて、流れを大切にしながら文字と言葉が伝わるように書くことが課題とし、「全国は憧れだった。さらに腕を磨いていきたい」と話す。

杉さんは高校から本格的に書道を始め、1年時は全道で優秀賞を獲得した成長株だ。「昨年、全国に行けなかった先輩たちの涙を見た。熱い思いを受け継ぎ頑張った結果が出た」と全国出場を喜ぶ。

道大会に出品したのは、近代詩文書による「星がこころ降る この世界に輝く星よ」。歌詞をモチーフに自作した言葉で、4月ごろ題材に決めた。筆を2本持つ合筆の手法を用い、割れや鋭い線を表現。文字のバランス、一体感を求め、書いた数百枚の中から出品作を選んだ。

顧問の石原伸弥教諭は「線が伸びやかで表現力も豊か。それ以上に本人の全国に懸ける気持ちが強かった」と評価する。

出品する作品の締め切りは来年3月。それまでに近代詩文書で自分の思いを表現できる言葉を探していく」と話した。2人を含む十勝からの応募作品約90点は、15日まで士幌町総合研修センターで展示されている。



「全国大会にふさわしいレベルまで磨きたい」と意気込む大塚さん



全国出場に意気込む杉さんと受賞作